

第3章 街路樹のある全路線への展開・ 関係部署との連携



1 路線ごとの目標・方針の設定

(1) PDCAサイクルによる検証

維持管理の担当者が変わっても、継続した街路樹の維持管理を行うために、路線ごとの将来目標と維持管理の方針の設定が必要です。しかし、限られた職員数で日常の維持管理を行いながら、街路樹のある全路線の将来目標を一度に設定することは困難なため、まずは第2章で選定した重点的に取り組む路線での試行に取り組みます。試行中は、街路樹担当者や造園職を中心に、PDCAサイクルにより、評価・改善を行います。並行して各路線の状況を整理²⁸し、類似条件の路線をまとめて検討するなど、試行や検証を進め、その他の路線の目標や方針に反映していきます。

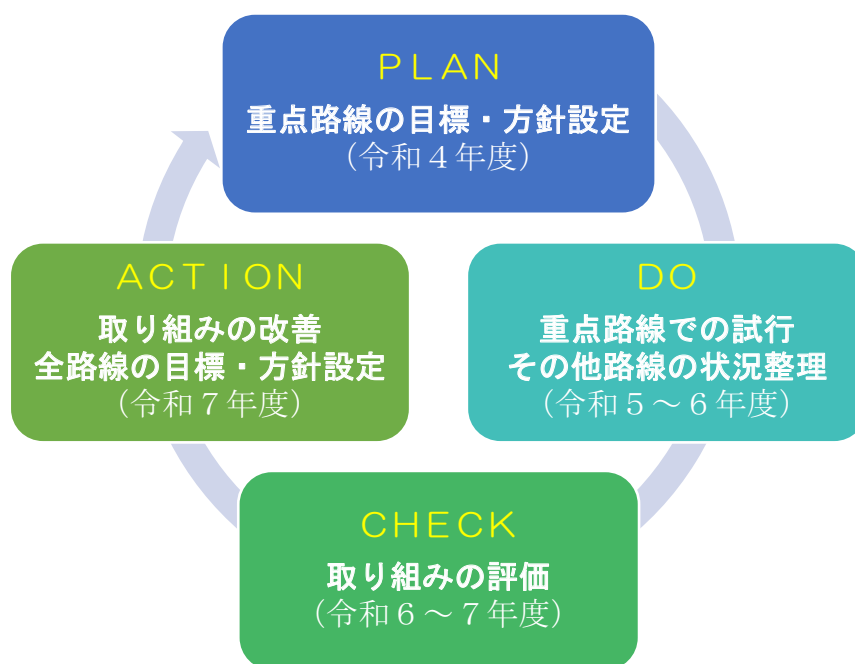


図 路線ごとの取り組みのPDCAサイクル

ア 路線ごとの目標・方針の設定方法

長く地域に親しまれる街路樹となるよう、各路線の状況に応じて、目標・方針を設定する。なお、設定にあたっては、ユニバーサルデザインの考え方や周辺の土地利用の状況なども踏まえ、構造上の課題への対応や他の緑で街路樹の機能を代替できる場合²⁹などは、街路樹を設けない選択肢も検討する。また、

²⁸ 各路線の状況整理案は資料編に掲載

²⁹ 街路樹の代替となる緑の考え方は、本章「4 公共施設等の沿道の緑地空間との連携」に記載

街路樹の目標樹形や剪定方針を設定する際は、東京都の街路樹維持管理計画書など他自治体の取り組みを参考にし、今後の取り組みや講習会等のスキルアップなどで検討を深めていく。

表 各路線の状況（課題）に応じた目標設定の例

課題分類	安全面	景観面
植栽	- 目標樹形の設定 - 大径木・枯損木の植え替え - 樹種や植栽間隔の変更	- 目標樹形の設定 - 陳情の少ない樹種へ植え替え - 樹種や植栽間隔の変更 - 沿道の公園等と連携した維持管理計画の設定、樹種変更
構造	- 大径木などの植え替え - 根上がり解消や予防の工事 - 植樹帯（低木）撤去 - 街路樹廃止や歩道拡幅の検討	- 幅員にあう樹種への植え替え - 目標樹形にあう植栽間隔への変更 - 沿道の緑地等と調整し、通行空間の確保や街路樹廃止

（２）ユニバーサルデザインへの配慮

「足立区バリアフリー推進計画（平成28年7月策定）」では、今後の開発やまちづくりの動向を踏まえつつ、優先的にバリアフリー化を進めていく、一体的なバリアフリー化の必要性及び効果が高い地域として、区役所、北千住駅、綾瀬駅、六町駅、西新井駅、竹ノ塚駅、梅島駅、江北、総合スポーツセンター、花畑の10地域を選定しています。

路線ごとの将来計画を設定する際には、この10地域を対象に策定が進んでいる「足立区バリアフリー地区別計画」の内容も踏まえつつ検討を行います。対象地域内の路線で現在の基準を満たさない道路構造の路線がある場合は、改良工事により基準を満たしたうえで街路樹を配置するといった道路整備と連携した目標設定も優先的に検討します。

ア 構造上の課題への対応事例

【事例1】足立47（千住中居町・千住龍田町）

年度 平成28年度～令和2年度

現況 歩道幅員約3m（両側歩道）、植樹帯（トウカエデ、ツツジ類）

内容 帝京科学大学が開校し通学の学生など通行人が増加したことで、沿道の商店会から歩道の有効幅員を広げる要望があったため、植樹帯（低木）を撤去しガードパイプを設置する工事を、4期に分けて予算を確保して施工した。（延長約450m、施工費約1,600万円）

なお、高木のトウカエデは残置し、千住中居町の区間は冬季に商店会によるイルミネーションも行われている。



施工前

施工後

【事例2】 湊江219（一ツ家2-1から一ツ家3-24）

年度 令和4年度

現況 歩道幅員2m未満（片側歩道）、植樹柵（ハナミズキ）

内容 歩道幅員が狭いため、ハナミズキが枯れた際には補植せず植樹柵を簡易舗装していた。簡易舗装の部分が多くなったため、植樹柵を撤去し歩道舗装を行った。そのうち枯損木が3本連続し、既存舗装も劣化していた部分約1.9mは、歩道全幅を舗装した。

単価契約工事で施工（約90万円）



施工前

施工後

（上：歩道全幅舗装、下：植樹柵のみ舗装）

2 データベース化の検討

維持管理の担当者が変わっても継続的・計画的な維持管理を行えるよう、本指針の策定とあわせて作成する街路樹台帳を活用し、維持管理情報³⁰を記録し引き継いでいく仕組みづくりに取り組みます。

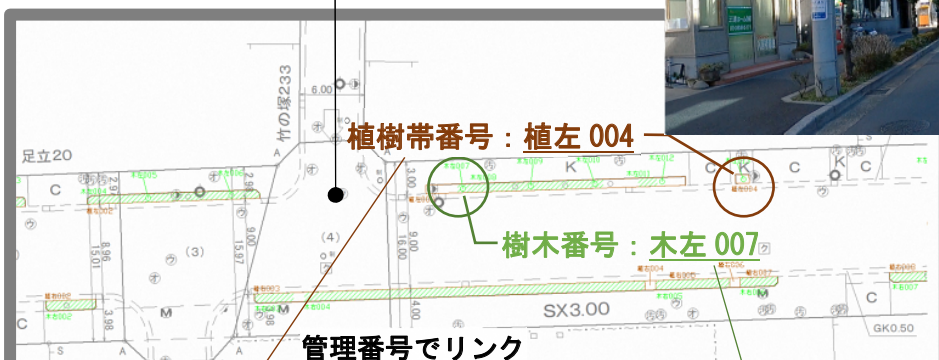
また、より効率的な維持管理のため、GISなどデータベース化も東京都など先進自治体の取り組みを参考に検討していきます。

(1) 街路樹台帳

樹木、植樹帯・植樹帯の位置を道路平面図上に記し、管理番号を付番します。管理番号ごとに樹木調書、植樹帯調書を作成し平面図と一体で管理します。

また、剪定や樹木の植え替え、樹勢確認や街路樹診断の実施記録、地元要望の内容や対応経過などの維持管理情報について、管理番号を活かした情報の更新、維持管理の履歴の記録にも努めます。

台帳平面図



街路樹状況映像



路線名	住所	植樹帯状況				植ます			備考
		植樹帯・植樹帯延長	幅員	面積	土	土系舗装	その他	種類	
足立20	竹の塚三丁目5番	植左001	10.7	0.8	9.1				
足立20	竹の塚三丁目5番	植左002	16.2	0.8	12.9				
足立20	竹の塚三丁目5番	植左003	24.4	0.8	19.9				
足立20	竹の塚三丁目5番	植左004	2.5	0.8	2.0		○		
足立20	竹の塚三丁目5番	植左005	1.9	0.8	1.4	○			
足立20	竹の塚三丁目5番	植左006	4.3	0.8	3.4				
足立20	竹の塚三丁目5番	植左007	18.6	0.6	12.7				
足立20	竹の塚三丁目5番	植左008	3.0	0.6	1.9				
足立20	竹の塚三丁目5番	植左009	16.6	1.0	17.7				

植樹帯調書

路線名	住所	調査日	植樹帯状況	樹木番号	高木			
					樹種名	幹回り (cm)	樹高 (cm)	枝張り (cm)
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左001	木左002	とうかえで	31	370	70
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左001	木左003	とうかえで	31	350	40
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左002	木左005	とうかえで	47	330	40
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左002	木左006	とうかえで	47	300	35
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左003	木左007	とうかえで	31	350	40
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左003	木左009	とうかえで	31	350	50
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左003	木左010	とうかえで	31	350	50
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左003	木左012	とうかえで	31	350	50
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左004	木左013	とうかえで	31	330	40
足立20	竹の塚三丁目5番先から竹の塚三丁目1番先	2021/12/18	植左005	木左015	とうかえで	31	350	50

樹木調書

図 街路樹台帳の構成

³⁰ 剪定や樹木の植え替えなどの維持管理履歴、樹勢確認や街路樹診断の実施記録、地元要望の内容や対応経過などの陳情記録など

3 道路の新規整備・改良時の考え方

無理なく維持管理ができる街路樹の形成を目指し、路線の形状や周辺環境を踏まえて樹種変更をすることも積極的に検討します。新しく整備される路線や、課題対応のために樹種を変更する場合には、生育環境や道路形態にあう街路樹となるよう、次の考え方を参考に、樹種選定を行います。

また、足立区施工の工事以外でも街路樹が植え替えられる機会があれば、同様の考え方で必要に応じて樹種変更や植栽間隔の変更などの改良を進めます。

ア 樹種選定の基本的な考え方

街路樹の樹種選定にあたっては、歩道幅員や植栽基盤の広がり留意し、植栽空間が狭い場合や上空の架線と重複する場合などは、大きくならない樹種や生長が緩やかな樹種を選ぶなど、樹木の特性を踏まえて樹種を選定する³¹。

既存植栽の変更の際は、樹冠を大きく広げないよう品種改良されている樹種に植え替える、イチョウ、ヤマモモなど雌雄異株の樹種は、落果による路面汚れ防止のため、結実しない雄株に限定して植栽する、などが考えられる。

また、冬期の日照確保の観点から、南北方向の道路には常緑樹、東西方向の道路には落葉樹の植栽が推奨されてきたが、病虫害の連鎖発生防止、並木に変化を持たせる等のため同一路線に混合植栽を取り入れることも検討する。

イ 樹木の生長にあう植栽間隔

樹種や道路幅員に応じた生長後の目標樹形を設定し、適した間隔に植栽する。道路幅員が比較的狭い両側植栽の道路では、向かい合う樹木が重なりにくい千鳥植栽にするなど可能な範囲で樹冠拡大できるよう工夫した植栽を行う。

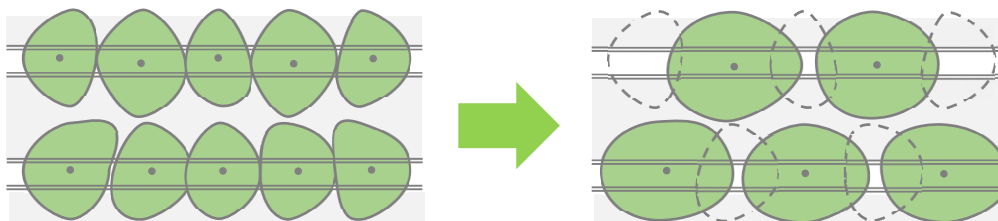


図 植栽間隔の調整イメージ

また、安全な通行確保や事故防止に配慮するため、信号機や標識、電柱、バス停など道路上に設置されるその他の構造物と互いに支障にならないよう事前に植栽箇所を調整すること。

³¹ 資料編の樹木リストなどを参考とする。

ウ 他企業工事・自費工事などの機会を活用した改良

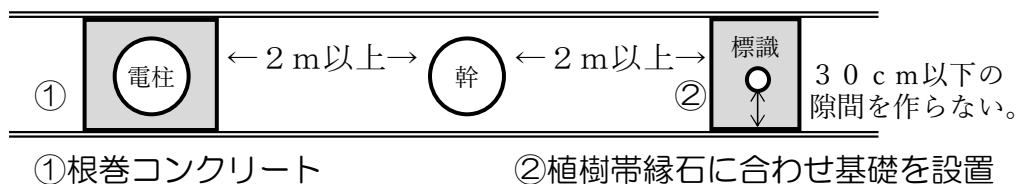
他企業・自費工事などで街路樹が一時撤去される場合、路線ごとの将来計画に沿って、樹種や植栽間隔を変更する、信号機や標識、電柱に近い場所は植栽しないなどの改良を検討し、施工者へ協力を依頼する。



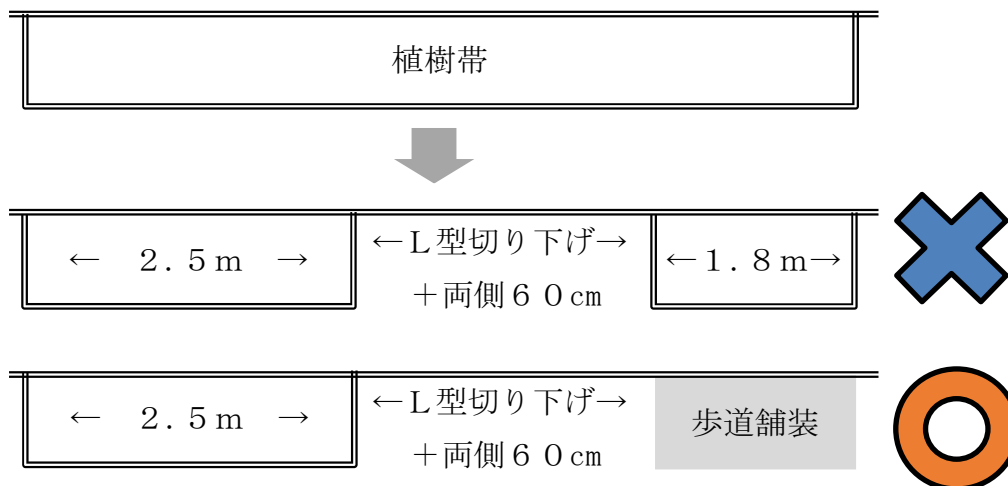
水道工事に伴う植え替え（イチョウからサルスベリへ変更）

（参考）自費工事等にかかる植樹帯の扱いについて

- 標識・電柱等を植樹帯内に設置する場合
 - ・ 高木より2m以上離して設置すること
 - ・ 柱等の周囲に30cm以下の土のままの隙間を作らないこと
 - ・ 隙間ができる場合は、以下のような方法で対処すること



- 車を乗り入れるための切り下げ工事などで植樹帯を分断する場合
 - ・ 延長2.1m以下の植樹帯を設けないこと
 - ・ 切り下げの両側は60cm以上空間を設けること



- 支障となる樹木の取り扱い
 - ・ 造園業者の施工による仮移植・復旧または場外移植とすること
 - ・ 移植が困難な場合や、該当路線の目標・方針で樹種変更としている場合などは、支障木の撤去＋新規植栽に替えることを協議する。

4 公共施設等の沿道の緑地空間との連携

歩道幅員が狭いなど構造上の課題を抱える道路では、公園外周部と道路を一体利用できるような整備を検討するなど、その他の公共施設と積極的に連携して安全性や快適性を確保した街路樹の維持管理を目指します。

また、例えば公園や学校等の公共施設の外周植栽を活かし道路に緑陰を形成するなど、他の緑で街路樹の機能を代替できる場合は、街路樹を設けない選択肢も検討します。その際、代替の緑の担保性³²を確認することが重要です。

公共施設に限らず、周辺の大規模な集合住宅や大学・企業・商業施設等と連携し、良好な景観形成や道路空間の快適性の向上を目指すことは、維持管理部署だけでは難しく、道路の形態が変わるような大規模な工事やまちづくりの機会などを捉え、様々な部署が主体的に取り組むことが望まれます。



小学校の敷地を活用し歩行空間を広げた例

³² 代替とする緑は、所有の状態や規制の強さなどによって、将来にわたり保全されるかどうかの担保性が異なる。特に民有地の場合、所有者の事情により、開発され失われるおそれがあるため、既存の緑があるだけで街路樹の代替となるとはいえない。

資料編



維持管理の根拠となる法令や街路樹の剪定・樹種変更などの考え方の参考となる国や東京都のサイトを紹介します。ホームページで最新版を参照してください。

国土交通省のホームページ

- **道路構造令、道路構造令施行規則 目次**

<http://www.mlit.go.jp/road/sign/kijyun/kozou/ss-kozou-index.html>

- **道路緑化**

<https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/ryokuka/index.html>

- ・ 道路緑化技術基準（本文）
- ・ 街路樹の植え替えや除去等に伴う合意形成事例（令和3年4月掲載）

- **街路空間の再構築・利活用に向けた取組 ～居心地が良く歩きたくなる街路づくり～**

https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_gairo_tk_000081.html

- ・ まちなかウォーカブル推進事業（社会資本整備総合交付金・補助金）
- ・ ストリートデザインガイドライン

- **道路空間の利活用・景観・緑化・環境**

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/utilization/>

- ・ ほこみち（歩行者利便増進道路）
- ・ 多様なニーズに応える道路 ガイドライン
- ・ 道デザインの改善の取組み事例集

- **都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)**

※「参考資料」に樹木の点検・診断の参考となる例が記載されている。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000261.html

国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所のホームページ

- **道の維持・管理 緑地管理**

<https://www.ktr.mlit.go.jp/toukoku/toukoku00199.html>

- ・ 街路樹管理マニュアル 令和4年2月
- ・ 街路樹点検マニュアル 令和4年2月

東京都建設局のホームページ

- **東京の街路樹**

<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/ryokuka/hyoushi/index.html>

- ・ 平成26年度 大径木再生指針
- ・ 令和3年度 街路樹診断等マニュアル
- ・ 街路樹維持管理計画書 令和3年12月

東京都環境局のホームページ

- **在来種選定ガイドライン**

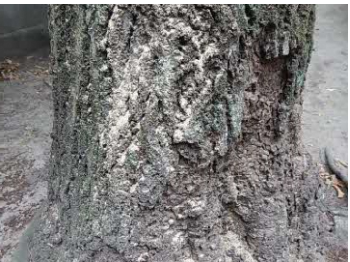
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/green/green_biodiv/ns_guidelines.html

- **一般社団法人街路樹診断協会ホームページ**

<https://www.gaishin.com/>

表 病害虫の点検時期・対応方法など

● 穿孔虫

名称	クビアカツヤカミキリ	カシノナガキクイムシ	コスカシバ
発生 樹木	サクラ、ウメなど (バラ科木本類)	シイ・カシなどナラ科	サクラなどバラ科
点検 時期	6 - 8	6 - 10	5 - 9
特徴	粗めで大量のフラス ³³ が目印。 成虫は体長 25~40 mm、黒色で艶があり、前胸部の背中側が赤い。	細かい大量のフラスや穿孔箇所から出る樹液が目印。 成虫の体長は 5mm 程度と小さい。	褐色の糞の混じった丸っこいフラスが目印。 羽化した成虫の蛹殻が残る場合もある。
対応 方法	成虫は補殺、被害木は樹木診断により伐採や成虫捕獲ネットの設置、幼虫を殺す薬剤の樹幹注入などを判断する。	幹へ粘着シート取り付けによる補殺など。 立ち枯れした木は焼却処分が必要。	成虫発生前に交信攪乱用のフェロモン剤を枝などに巻き、交尾を阻害する。
写真	 フラス	 フラス	 フラス
	 成虫	 穿孔痕	 成虫の蛹殻

³³ 幼虫のフンと木くずが混ざったもの

● 有毒な虫

名称	チャドクガ	イラガ類	タケノホソクロバ
発生 樹木	ツバキ、サザンカなど	様々な樹木を食害する。特にサクラ、ケヤキ、カエデ類、カナメモチなど	タケ、ササ
点検 時期	4－6、8－10	5－10	5－10
特徴	幼虫は淡黄褐色で成長すると25mm程度。 直接触れなくても木の下を通ったり、風下にいるだけで被害にあうことがある。	ライムのような鮮やかな緑色や薄茶色で、ウミウシに似た外観をしている。 カナメモチなどによく発生するヒロヘリアオイラガは、若齢幼虫期は葉の裏にまとまって発生する。表皮を残して食害するため、残った表皮が目印となる。	年2、3回発生する。 弱齢幼虫は葉肉のみ食べるので、葉が白くなり目立つ。
対応 方法	毒気は成虫、卵、幼虫の脱皮殻にもあるため、特に低木は樹種変更を推奨。	生垣など人体に触れやすいところは特に注意して初期防除を心掛ける。 枝や幹に繭をつくって越冬するため、見つけたら掻き取る。	人体に触れやすいところは特に注意して初期防除を心掛ける。
写真			
	発生状況初期	発生状況初期	発生状況
			
	発生状況	幼虫	幼虫
			
		葉の食害状況	

● 無毒な虫

名称	モンクロシャチホコ	イモムシ類	ゲンバイムシ
発生 樹木	サクラ、ウメなど (バラ科木本類)	コブシ、モクレン、アキニ レなどが大量発生による駆 除要望がきやすい	プラタナスなど
点検 時期	8 - 9	5 - 8	4 - 10
特徴	最初は赤褐色、成長すると 黒色になり黄白色の長毛 が生じて 5cm くらいの体長 になる。木の下に黒いフン がごろごろと落ち、雨が降 ると木の下がフンで赤くなる。 9 ~ 10 月、落ち葉や土 の浅いところでサナギにな り越冬するため地上へ降り てくる。その際、沿道の住宅 敷地内やベランダ等に入る ことがある。	モクレン類を食害するコ ブシハバチ (5 ~ 6 月頃) や、アキニレなどを食害す るニレハムシ・ニレチュウ レンジ (7 ~ 8 月頃) など は、発生初期に群生する。	年に数回発生。 沿線の住宅の網戸や洗濯 物への飛来による駆除要望 がきやすい。
対応 方法	8 月頃から巡回し、群生 している幼虫を葉や枝ごと 切り取り処分する。同じ場 所で発生する傾向があるた め、以前に被害が発生した 路線を中心に見回る。 越冬期に地際の蛹を落葉 ごと集めて焼却する。	発生時期に巡回し、群生 している幼虫を葉や枝ごと 切り取り処分する初期防除 を心掛ける。	風通しをよくする夏期剪 定を実施する。 樹種変更も検討する。
写真			
			
			
	糞による赤い汚れ	ニレハムシ発生状況	

● キノコ（腐朽菌）

名称	ベッコウタケ	コフキタケ (コフキサルノコシカケ)
点検 時期	6－8	適宜
特徴	広葉樹の根元付近に発生、初めは黄白色のこぶ状、生長すると扇形のオレンジ色～褐色の子実体（キノコ）を形成する。生木にも発生し、根株を腐らせる腐朽菌で、倒木の原因となる。	広葉樹の幹や根元付近に発生、半円形の傘で、表面は灰白色～灰褐色、粉を噴くように放たれた胞子で茶色くなる。腐朽力が強く、生きた組織にも感染して木材を腐朽させ倒木や幹折れの原因となる。
写真	 発生状況 初期	 発生状況
	 発生状況	

引用参考資料

- 令和3年度 街路樹診断等マニュアル 東京都建設局
- 公園樹木維持管理指針 技術資料編(平成23年3月) 足立区都市建設部みどりと公園推進室
- 公園維持管理作業委託 仕様書別紙「害虫一覧表」 足立区都市建設部東部道路公園維持課

表 足立区道の主な街路樹リスト

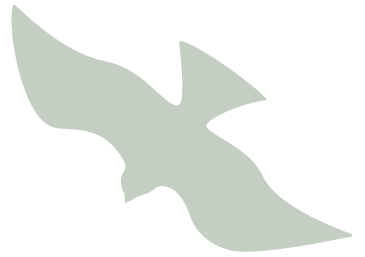
樹種	特性	常緑/落葉	景観特性	生長速度	自然樹高	自然枝張 (枝張/樹高)	根系	耐剪定性	歩道幅員適応 (m)	在来/外来	病害虫	備考
アミニレ		落		早	15m	1.0	浅	有	4.75以上	自	多	ニレハムシ
モミジバフウ		落	紅葉	早	30m	0.8	浅	有	4.75以上	外	多	別名アメリカフウ
イチョウ		落	紅葉	早	30m	0.8	深	有	4.75以上	外	少	落果による汚れ、雌雄異株
イロハモミジ		落	紅葉	早	10m	1.0	浅	普通	3.25以下	自	多	
ウバメガシ		常		遅	15m	1.0	中	有	3.25～4.75	在	少	樹形維持困難
エゴノキ		落	花	早	10m	1.0	浅	無	3.25～4.75	自	少	
エンジュ		落		早	15m	1.0	中	有	4.75以上	外	多	がんしゅ病、枝折れ多
オトメツバキ		常	花	遅	7m程度	-	深	有	-	-	多	
カツラ		落	紅葉	早	30m	0.8	深	普通	3.25以上	自	多	緑陰効果大、枝折れ多
カリン		落	実	遅	10m	-	浅	普通	-	-	少	落果の危険
キンモクセイ		常	花	遅	10m	-	浅	有	-	-	少	
クスノキ		常		早	20m	1.2	中	有	4.75以上	在	少	大径木化
クロガネモチ		常	実	遅	15m	0.8	浅	普通	3.25以下	在	普通	雌雄異株
ケヤキ		落	紅葉	早	30m	1.0	浅	普通	4.75以上	自	少	大径木化
コブシ		落	花	早	15m	0.8	中	無	3.25以上	自	少	イモムシ類
ザイフリボク		落	花/実	普通	10m	1.0	中	普通	3.25以下	自	少	
サルスベリ		落	花	早	15m	1.2	中	有	3.25以下	外	多	ヤゴ、枝下がり
シマトネリコ		常		-	10m	-	-	-	3.25以上	-	多	新品種
シラカシ		常		早	20m	1.0	中	有	3.25以上	自	少	
シンジュ		落		早	20m	1.0	中	有	4.75以上	外	少	樹形維持困難
スダジイ		常	実	早	20m	-	深	有	-	在	多	
ソメイヨシノ		落	花	早	10m	1.2	中	無	4.75以上	在	多	大径木化
タイサンボク		常	花	早	20m	-	深	普通	-	在	少	大きな葉
タブノキ		常		早	20m	1.0	中	有	4.75以上	自	少	
トウカエデ		落	紅葉	早	15m	1.0	浅	有	3.25以上	外	多	アブラムシ
トチノキ		落	花/実	早	20m	0.8	深	普通	4.75以上	自	少	
ニセアカシア		落		早	20m	1.0	中	有	4.75以上	外	多	枝にトゲ、がんしゅ病
ネズミモチ		常		早	7m程度	-	浅	有	-	在	少	トウネズミモチとは異なる
ハナミズキ		落	花/実/紅葉	遅	10m	1.0	浅	普通	3.25以下	外	多	乾燥、剪定に弱く枯れやすい
ハナモモ		落	花/実	早	7m程度	-	浅	普通	-	-	多	コスカシバ
ヒマラヤスギ		常		早	50m	-	深	普通	-	-	多	
ヒメリンゴ		落	花/実	早	10m	-	-	有	-	-	普通	
アラタナス		落		早	30m	1.0	中	有	4.75以上	外	多	大きな葉、ザンバイムシ、カミキリムシ
ホルトノキ		常		遅	20m	1.2	中	有	3.25以下	在	少	
マテバシイ		常	実	早	10m	1.2	深	有	3.25以上	自	少	木姿丸い、枝折れ
モクレン		落	花	遅	15m	1.0	中	無	3.25以上	外	少	
モッコク		常		遅	15m	0.8	浅	無	3.25以下	在	普通	
ヤマボウシ		落	花/実	遅	10m	0.8	浅	普通	3.25以下	自	少	
ヤマモモ		常	実	遅	15m	1.2	中	有	3.25～4.75	在	少	落果による汚れ、雌雄異株
ユリノキ		落	紅葉	早	30m	0.8	深	普通	4.75以上	外	少	大きな葉

「樹種剪定樹木リスト」道路工事設計基準（令和4年4月、東京都建設局）P1-167及び「公園樹木特性一覧」公園樹木維持管理指針 技術資料編（平成23年3月、足立区都市建設部 緑と公園推進室）参考資料P3～9を基に作成

路線の状況整理案

以下の項目を参考に、路線ごとの状況を整理する。

項目	内容
管轄	担当の係名を記載
路線名	「号」は不要
道路愛称名	愛称名があれば記載
延長(km)	途中で道路形態が大きく変わる場合は分けて記入
道路幅員	途中で道路形態が大きく変わる場合は分けて記入
車道幅員	途中で道路形態が大きく変わる場合は分けて記入
歩道幅員	途中で道路形態が大きく変わる場合は分けて記入
有効幅員	途中で道路形態が大きく変わる場合は分けて記入
植樹帯	植樹帯がある場合は、幅（m）を記載
植栽形態	植樹樹、植樹帯などを記載
高木	樹種、本数を記載
中木	樹種、本数を記載
低木（㎡）	樹種、面積を記載
周辺環境	駅、住宅地、商店街、緑地、学校、商業施設、大規模集合住宅、都営住宅などを記載
歩きたくなるルート	設定されているか
都市計画道路	該当するか
駅前広場	路線内、路線付近に駅前広場があるか
通学路	該当するか
バリアフリー	優先路線か、優先路線の場合は対応済みか
沿道の緑地空間	有無、ある場合は区立施設か、それ以外か



足立区

